

<一般質問> 30周年を迎える「女性総合センター・アイム」

市民の自主的な取り組みを規制しない、表現の自由が守られる施設を求める

今年30周年を迎える立川市女性総合センター・アイムは、「男女平等参画社会の推進」や「消費生活の向上」が設置目的ですが、アイム登録団体が、市民に広く参加を呼びかける講演会等を開催する場合、「利用の手引き」の規定などにより、大ホール以外では開催できないことになっています。また、主催・共催の講演会等に関し「講師選定指針」の定めがあり、実際には市民が企画・運営する事業でも、市の担当課が講師選定に介入してくるケースがありま

す。手引きも、指針も、市民の自主的な取り組みを制限されることのないよう、手引きの改定や、指針の適用対象・運用の見直しを求めて質問しました。

市の答弁 現在は「利用の手引き」に書かれたルールの中で活動してほしい。指針については、適用対象や運用について今後、他自治体の状況を調査していきたい。

環境建設委員会

「巨大物流センター建設」により交通量が増え

渋滞や通勤通学の安全、電波障害、環境への影響を心配する市民の声から

市内での説明会を求める

日本GLP社が今年2月、昭島市内（立川市西砂町と隣接）で建設を計画中のGLP巨大物流センターの環境影響評価書案に関する説明会を開催。説明会では、市民から評価書案に関し「不備だらけだ」との指摘や、やり直しを求める意見などが相次ぎました。この計画は立川市には何ひとつメリットがなく、渋滞や大気汚染等を悪化させ、電波障害や日影の影響も出ます。何より通学する子どもたちや自転車に乗る方々の安全を損ない、救急車両の通行も妨げます。評価書案は信憑性に欠けるため、市の見解を聞きました。

一般市民向けの説明会は、立川市内で開かれておらず、GLPに市から求めるよう要望しました。

市の答弁 環境影響評価書案については今までの説明と異なる根拠や分かりづらい表現などがあり、さまざま不備がある点は認識している。立川市内での説明会開催については要望している。



写真：東京・生活者ネットワーク岩永やす代都議、昭島・生活者ネットワーク林まい子市議と物流センター建設予定地を、2024年1月12日視察。建設予定地は準絶滅危惧種のオオタカの生息地です。開発による影響は人だけにとどまりません。

くらしの中で感じる不便なこと、こうしたらいいの、といったご意見を「あべみさ」までお寄せください。